



ベラルーシ訪問報告会

子どもたちの健康管理と保養のあり方

2015年3月30日～4月6日、福島的女性や若者らのグループで、チェルノブイリ原発事故後の子どもたちに対する支援のしくみや避難者の現状などを学ぶため、ベラルーシ・ミンスクを訪問しました。

ベラルーシには、チェルノブイリ原発事故後、放射性物質の70%が降り落ちました。周辺地域は強制移住となり、現在も心臓病や甲状腺の病気、白血病、子どもたちの糖尿病などが多発しています。国民への情報提供が限られていたり、すでに政府は原発事故からの「復興と再生」ステージにあるとしていたり、数多くの悩ましい側面を目の当たりにしました。

一方、健康診断や子どもたちの保養の制度（すべての子どもたちが3週間保養）など今の日本が学ぶべき政策もあります。現地で見聞きした日本への示唆を報告します。

報告者： 人見やよい、宇野朗子、八島千尋、吉田明子

日時： 2015年 **7月11日(土)**

14:00 ~ 16:30

場所： **豊島区生活産業プラザ**



資料代： 500円（報告書は別途販売）

申込み： FoE Japan ウェブサイトより、なるべくお申し込みください。または下記までご連絡ください。

主催： 国際環境 NGO FoE Japan www.foejapan.org

連絡先： Tel: 03-6909-5983 Fax: 03-6909-5986 Email: info@foejapan.org